



表 1

令和元年度 中部地方整備局入札監視委員会  
第一部会 第3回定例会議審議概要

開催日及び場所	令和元年12月16日(月) 15時00分～17時00分 名古屋銀行協会会館 2階 201号室	
委員	部会長：永田和寿 (名古屋工業大学 大学院 工学研究科 准教授) 委員：大島嘉秋 (公認会計士) 小島淳 (名古屋大学 大学院 法学研究科 教授) 中村麻理 (名古屋文理大学 健康生活学部 教授) 橋本修三 (弁護士) (委員は五十音順)	
審議対象期間	令和元年7月1日～令和元年9月30日	
抽出案件	総件数 8 件	審議案件は「表2」のとおり
【工事】		
一般競争入札方式 ( 拡 大 )	5 件	
【建設コンサルタント業務等】		
指名競争	1 件	
簡易公募型 プロポーザル方式	2 件	
委員からの 意見・質問、 それに対する 回答等	意見・質問	回 答
	「表3」のとおり	「表3」のとおり
委員会による 意見の具申 又は勧告の内容	なし	

表 2

## 抽出事案一覧表

(期間:令和元年7月1日～令和元年9月30日)

## 【工事】

番号	工事名	工事種別	競争参加資格を 確認した者の数	入札 参加 者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備 考
<b>(一般競争入札方式:政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの)</b>									
1	令和元年度 東海環状岐阜IC北下部工事	一般土木	6	6	R1.7.16	巴産業(株)	166,320	98.80	岐阜国道事務所(分任官契約)
2	令和元年度 庄内川山田地区築堤工事	一般土木	10	9	R1.8.9	(株)山田組	159,500	93.65	庄内川河川事務所(分任官契約)
3	令和元年度 豊橋河川ネットワーク設備整備工事	通信設備	1	1	R1.8.28	エフコム(株)	37,950	98.97	豊橋河川事務所(分任官契約)
4	令和元年度 41号名濃バイパス中小口南地区道路建設工事	一般土木	9	9	R1.7.23	中部土木(株)	142,450	90.25	愛知国道事務所(分任官契約)
5	令和元年度 設楽ダム瀬戸設楽線大名倉工区橋梁下部工事	一般土木	2	2	R1.8.19	鈴中工業(株)	247,500	99.37	設楽ダム工事事務所(分任官契約)

## 【建設コンサルタント業務等】

番号	業務名	業種区分	指名 業者数	入札 参加 者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備 考
<b>(通常指名競争入札方式)</b>									
6	令和元年度 飛騨地域地質調査業務	地質調査	14	13	R1.7.2	NTCコンサルタンツ(株)	21,681	80.00	高山国道事務所(分任官契約)

番号	業務名	業種区分	手続きへの参加資格及び業務実施上の条件を満たす参加表明書の提出者数	技術提案書の提出者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備 考
<b>(簡易公募型プロポーザル方式)</b>									
7	令和元年度 災害に強いまちづくり計画支援業務	土木コン	3	3	R1.9.30	日本工営(株)	6,963	100.00	建政部(本官契約)
8	令和元年度 蓮ダム下流域浸水想定図検討業務	土木コン	7	7	R1.9.10	パシフィックコンサルタンツ(株)	29,370	100.00	蓮ダム管理所(分任官契約)

表 3 委員からの意見・質問、それに対する回答等

(1) 報 告	
①工事に係る入札方式別発注工事一覧 ②建設コンサルタント業務等に係る入札方式別発注業務一覧 ③役務の提供等及び物品の製造等に係る入札方式別発注業務一覧 ④談合情報等の対応状況 ⑤指名停止等の運用状況一覧表 ⑥再度入札における一位不動状況 ⑦低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 ⑧一者応札の発生状況 ⑨不調・不落の発生状況 ⑩高落札率の発生状況	
	意見・質問
	回 答
	なし

(2) 審 議		
会議の審議対象案件は、当番の委員が入札契約方式別に事務所毎の審議実績及び工事種別等を考慮したうえで抽出したものである。		
抽出案件名	意見・質問	回 答
1. 令和元年度 東海環状岐阜IC北下部工事	落札者と次順位者の加算点評価は2点の差であった。その差は技術者の能力によるものであったが、この差は工事の成績によるものなのか、他に何か評価指標のようなものがあるのか。	工事成績の評価点が優位だったことが、この点数の差になったものである。
	高落札率の案件で有り、同種又は類似工事の入札状況をみてみたい落札率が高くなっている。この手の工事はこうなりやすいものなのか。	工事の内容が橋梁の下部工を施行するものであり、工事の中身がシンプルであり、積算の考え方も明確である。さらに工事規模も小規模であるなど、いろいろな要素が重なりこのような結果になったものと推察する。
	以前の案件では、いくつかの工区を同時に発注し、その順位で受注者を決めたものがあつたと思うが、今回は1基だけで発注されているが、以前のような発注は検討したのか。	この地域は、橋梁構造が本線、ランプ橋を含めて、非常に入り組んでおり、施工ヤードの取り合いが生じるということも有り、他工事との関連、干渉を加味して発注計画を立てており、その上で今回、1基での発注としている。
	3者が配置予定技術者の重複のためという理由で辞退しているが、せっかく6者入札に参加してもらったのに、半数が取り下げるとするのは残念なこと。競争性を高める上で、今後どのような工夫を考えているか。	工事発注が最盛期ということもあるが、工事の発注時期をうまくずらしたり、地元の発注の競争環境を可能な限り高められるよう、発注計画を適切に立てるといったことなどをしっかりと取り組んでいきたい。

抽出案件名	意見・質問	回 答
2. 令和元年度 庄内川山田地区築堤工事	4者が調査基準価格を下回っているが、その原因は何か。	本工事は盛土量が多く、当方の積算では超大口単価を採用しているが、この4者はおそらく超大口ではなく、大口単価を採用していることによるものと推察する。超大口単価が高くなった理由としては、当方でも資材価格調査を行っており、盛土材を大量に購入するため、購入元の確保、品質の確保が必要なために単価が上がり、ここに乖離があったものと推察する。
	加算点評価について、落札者と次順位者とは地域精通度・貢献度で差がついているが、どういったことでこの差がついたのか。	地域精通度・貢献度の評価項目の中に災害対策協力支援という項目があり、落札者は平成30年7月豪雨の時に被災地に行って排水活動を行っていることから、それが加算されたものである。
3. 令和元年度 豊橋河川ネットワーク設備整備工事	今回の工事は専用線によりネットワークが組まれているものだと思うが、汎用的にいろいろな企業が施工できる工事だと考えるが、なぜ1者なのか。	同種実績で76者を確認しており、そのうちダウンロードした者は22者あったが、結果的に1者となった。
	10年ぶりの工事ということだが、10年前に設置した者はどこか。今回と同じ者なのか。	今回の落札者とは違う業者である。
	その者は今回なぜ入札に参加しなかったのか。	当時とは仕様が異なっているということもあると思うが、その者に直接聞いていないのでわからない。
	汎用的な工事であり、もう少し手が上がっても良いのかなと思うが、今後、競争性を高めるための工夫は何か考えているのか。	今回の工事は工期設定が準備1ヶ月、制作4ヶ月、工事1ヶ月の約6ヶ月としているが、今後は、より選びやすい工期設定(工期を長くするなど)、発注規模を工夫する(単体事務所での発注でなく近隣事務所と合わせて発注するなど)ことなどを考えていきたい。
4. 令和元年度 41号名濃バイパス中小口南地区道路建設工事	予定価格を超過している者が3者あるが、どういった要因が考えられるのか。	原因についてはよくわからないが、この国道は4万台以上の車が走る道路であり、車線の規制の考え方などで差が出たのではないかと推察する。
	地域要件について、愛知県内で設定されているが、実際に入札に参加した者を見ると、名古屋市など尾張地方の者に偏っている。愛知県内と設定された理由は何か。	愛知国道は302号とその外側に伸びる1号、19号、22号、41号など愛知県内の改築事業を担当しており、過去から少し大きなエリアで設定している。
	実際に現場に行くことを考えると三河地方の業者は手をあげにくいと思うが、これまでに尾張地方の工事を三河地方の者が落札したことはあるのか。	本件は41号の工事であり、愛知県の北部であるため、ご指摘のような参加状況になっているが、302号の工事では三河地方の者が落札したこともある。
5. 令和元年度 設楽ダム瀬戸設楽線大名倉工区橋梁下部工事	参加者が2名で、1者取り下げたことにより実質1者となってしまっている。地域要件を愛知県内としているが、これをもっと広げたら競争性が高まっていたという可能性はあるか。	愛知県内ということで、名古屋市も含むかなり広い範囲だと考えている。今回2者となってしまった原因については、今年度の設楽ダムの工事発注件数が多いこと、周辺の県等の工事発注も増えていること、また、年度当初に多くの工事を発注しており、今回、年度途中の発注ということもあり、橋梁下部工の分野の技術者の確保が難しかったのではないかと推察している。
	入札説明書を見ると、担当部局が浜松市の浜松河川国道事務所となっているが、このことから地域要件として浜松の方を入れても良かったのかなと思うが、何か事情があったのか。	ここに記載の担当部局 浜松河川国道事務所は、設楽ダムに代わって契約の手続きだけを集約して行っている部署である。発注自体は設楽ダム工事事務所の権限で行っており、特にこの工事に浜松河川国道事務所が直接的な関連があるものではない。
	1回目が予定価格を超過して、2回目の入札を行っているが、どういう手続きになるのか。	1回目で全者予定価格を超過すれば2回目に移ることになっている。2回目で受注者が価格を下げて今回落札となったが、その先、3回目については、1回目と2回目の開差によって3回目を行うかどうか判断することになる。
	落札率が高いのはそのことに原因があるのか。	1回目で予定価格を少し上回っており、2回目に若干価格を下げて落札したことによるものである。

抽出案件名	意見・質問	回 答
6. 令和元年度 飛騨 地域地質調査業務	入札調書を見ると、調査基準価格と同額の者と予定価格と同額の者がいるが、こういった要因が考えられるのか。	地質調査は比較的簡単な業務であり、積算も概ね的確にできる業務である。過去の地質調査業務の応札状況を見ても、同様な状況となることが多い。
	評価の低い者は、そのことを知らないといつまでたっても低い評価のままである。この評価を対象企業が知る機会はあるのか。	中部地整のHPで「建設コンサルタント業務等における入札・契約手続きに関するガイドライン」を公表しているが、その中に指名競争における業者選定の考え方の記載があり、手持ち業務量、業務成績、優良業務表彰などの配点も記載されているので自社のおおよその点数はわかるのではないかと。
	27者を選定して、奇数番号の14者を選定したということだが、奇数番号というのは何かルール化されたものがあるのか。	同時期に同様の別の地質調査業務を発注しており、選定した27者を整理番号で奇数と偶数の2つに分けて、偶数の者はもう一つの業務で指名したというもので、どちらが先でというものはない。
7. 令和元年度 災害 に強いまちづくり計 画支援業務	特定テーマの配点が50点と大きいと思うが、内訳を参考に教えてほしい。	業務方針では、更新案作成に伴う項目の整理方法、シンポジウム等の実施結果をタイムリーに情報提供できるよう業務着手段階での情報提供時期を設定したこと等を評価している。業務実施体制では、管理技術者による情報一元管理、シニア技術者による多重チェック体制等を評価している。特定テーマでは、産業が沿岸部に集積しているといった地域特性の整合性が高いこと、ガイドライン更新に係る自治体の関心を把握すること、ガイドライン更新深度化のための発注者提供資料の使用状況等を評価した。
	特定テーマの点数について、特定した者が一番高いが、有効な調査に関する留意点について、具体的にどういうところが高いのか。	産業が沿岸部に集積しているといった地域特性の整合性が提案の中でしっかりと書かれていたこと、ガイドライン更新に係る自治体の関心事を把握すること、ガイドライン更新深度化のための発注者提供資料を使用しながら、回答者である自治体の資料軽減を考慮するといったところを評価した。
8. 令和元年度 蓮ダム 下流域浸水想定 図検討業務	技術点評価結果を見ると、特定した者と次順位者との合計点の差は1点で、その内容を見ると業務実施体制の差であるが、何が違ったのか。	流出・河道・氾濫特性に精通する学識者の助言をいただくというところで、他の者にも記載はあったが、特定した者は段階的にしっかりとフローにも明記しており、計画的にこの業務を進捗させていく上で助言をもらう時期が明確にわかったので、そこで点数に差がついたものである。